2025年度国公立大志願状況

国公立大の確定志願者数が判明した。総志願者数は428,492人、志願倍率は4.4倍であった。前年より志願者が増加したことで、倍率も上昇した。以下、各国公立大が公表した出願状況について概況をまとめた。

■前期・中期日程で志願者増加

国公立大一般選抜の総志願者数は428,492人と前年から5千人以上増加（前年比101%）し、募集人員に対する志願倍率も4.4倍と0.1ポイント上昇した（以下、倍率はとくに記載のない限り全て志願倍率）＜図表1＞。

先日発表された大学入学共通テスト（以降、共通テスト）の受験者数は前年比101%、このうち国公立大志願者が中心となる8科目型受験者は前年比100%（前年の7科目受験者との比較）と、いずれも前年並みだった。今春の共通テストの平均点は前年からややアップしており、予定通り国公立大に出願した受験生が多かったものとみる。

国公立大入試の中心となる前期日程の志願者数は、235,713人（前年比101%）となった。国立大、公立大に分けてみると、国立大で前年比101%、公立大で同104%と、公立大で増加数、増加率とも高くなった。

また、後期日程で前年比100%、公立大で実施される中期日程で同106%となった。後期日程の志願者数は前年並みだが、募集人員が減少しているため、倍率は上昇した。

＜図表1＞国公立大志願状況

区分	日程	募集人員 (A)		志願者数 (B)				志願倍率 (B/A)	
		24年度	25年度	24年度	25年度	前年差	前年比	24年度	25年度
国立大学	前期	63,728	63,544	177,515	178,605	+1,090	101%	2.8	2.8
	後期	12,644	12,243	122,193	121,125	-1,068	99%	9.7	9.9
	計	76,372	75,787	299,708	299,730	+22	100%	3.9	4.0
公立大学	前期	16,791	16,872	54,826	57,108	+2,282	104%	3.3	3.4
	後期	3,348	3,222	37,653	38,813	+1,160	103%	11.2	12.0
	中期	2,400	2,388	31,068	32,841	+1,773	106%	12.9	13.8
	計	22,539	22,482	123,547	128,762	+5,215	104%	5.5	5.7
国公立大学計	前期	80,519	80,416	232,341	235,713	+3,372	101%	2.9	2.9
	後期	15,992	15,465	159,846	159,938	+92	100%	10.0	10.3
	中期	2,400	2,388	31,068	32,841	+1,773	106%	12.9	13.8
	計	98,911	98,269	423,255	428,492	+5,237	101%	4.3	4.4

※河合塾調べ
※独自日程で実施する大学は表に含まない

■準難関・地域拠点大で志願者増が顕著

＜図表2＞は前期日程の志願状況を大学グループ別に分けたものである。今年は旧帝大を中心とした「難関10大」で志願者がやや減、準難関・地域拠点10大学のグループ「準難関大」で大きく増加した。とくに首都圏でその傾向が顕著で、東京大、東京科学大、一橋大で志願者が減少した一方、千葉大、横浜国立大で前年から1割以上志願者が増加した。

＜図表2＞国公立大（前期日程）大学グループ別志願状況

大学グループ	募集人員 (A)		志願者数 (B)				志願倍率 (B/A)	
	24年度	25年度	24年度	25年度	前年差	前年比	24年度	25年度
難関10大	19,574	19,576	56,972	56,171	-801	99%	2.9	2.9
準難関大	13,935	13,896	41,702	44,916	+3,214	108%	3.0	3.2
その他大	47,010	46,944	133,667	134,626	+959	101%	2.8	2.9

※河合塾調べ
※難関10大：北海道、東北、東京、東京科学、一橋、名古屋、京都、大阪、神戸、九州（2024年度は東京医科歯科、東京工業を含む）
準難関大：筑波、千葉、横浜国立、新潟、金沢、岡山、広島、熊本、東京都立、大阪公立

■地区別－南関東、北陸、中国では千人以上増加

＜図表3＞は前期日程の地区別の状況である。志願者が増加したのは、南関東、北陸、近畿、中国、四国である。このうち北陸は昨年志願者数が大きく減少した反動で、今年の志願者数は一昨年並みに戻った形である。また、南関東は4年連続、近畿は3年連続で志願者が増加、国公立大の人气が高まっている。

志願者が減少した地区は、北関東、東海、九州などである。九州は前年に志願者が1千人以上増加しており、その反動とみられる。

志願時特有の動向として、模試段階では見られない隔年現象の動きである。今年も前年の反動で志願者が増加または減少した大学・学部が各地にみられるが、以下はその増減幅が大きい大学である。いずれも前年比は前期日程のものである。北見工業大（53%→188%→71%）、秋田県立大（62%→151%→56%）、横浜国立大（136%→88%→111%）、富山大（112%→75%→134%）、福井大（62%→133%→83%）、浜松医科大（169%→74%→111%）、島根大（91%→129%→72%）、山口大（135%→72%→121%）、宮崎公立大（64%→222%→48%）。出願の際に前年入試の倍率のみに注目しないよう注意したい。

＜図表3＞国公立大（前期日程）地区別志願状況

地区	24年度	25年度	前年差	前年比
北海道	11,203	11,039	-164	99%
東北	17,255	17,138	-117	99%
北関東	12,757	12,435	-322	97%
南関東	48,574	49,592	+1,018	102%
甲信越	10,491	10,337	-154	99%
東海	20,928	20,575	-353	98%
北陸	9,267	10,286	+1,019	111%
近畿	40,860	41,609	+749	102%
中国	20,426	22,038	+1,612	108%
四国	9,364	10,009	+645	107%
九州	31,216	30,655	-561	98%

※河合塾調べ

※北関東：茨城・栃木・群馬 南関東：埼玉・千葉・東京・神奈川

■系統別の状況－文系の学部系統で志願者増、理学部人気も続く

＜図表4＞は国公立大の前期日程の志願状況を、学部系統別に集計したものである。文系では社会科学系の各系統で志願者の増加が目立った。なかでも「社会・国際」が前年比109%と全系統の中で増加率が最も高くなった。

理系では「理」で志願者増加、「工」で前年並み、「農」で減少した。また「医・歯・薬・保健」の志願者数は前年並みであったが、「医」で減少、「歯」で増加した。

以下、主な系統について確認していく。なお、文中の志願者数・前年比はとくに記載がない場合、前期日程を表す。

【文・人文学系】

系統全体の志願者数は前年比101%だった。分野別にみると「心理」のほか、文学系で志願者の増加が目立った。各分野で倍率が最も上昇したのは、「外国文学」であった。

【社会科学系（社会・国際、法・政治、経済・経営・商）】

「社会・国際」系の志願者数は前年比109%、6年ぶりの増加となった。分野でも「社会」は前年比119%と増加率が高い。とくに増加数が多い大学は、横浜国立大（都市科学-都市社会共生）、名古屋市立大（人文社会-現代社会）、島根県立大（地域政策-地域公共）などで、なかでも島根県立大の倍率は昨年の1.7倍から12.9倍に跳ね上がった。

＜図表4＞国公立大（前期日程）学部系統別の志願状況

系統	募集人員 (A)		志願者数 (B)				志願倍率(B/A)	
	24年度	25年度	24年度	25年度	前年差	前年比	24年度	25年度
文・人文	7,174	7,135	19,953	20,201	+248	101%	2.8	2.8
社会・国際	3,839	3,824	10,492	11,406	+914	109%	2.7	3.0
法・政治	4,123	4,121	11,711	12,594	+883	108%	2.8	3.1
経済・経営・商	8,384	8,376	25,772	26,371	+599	102%	3.1	3.1
教育－教員養成課程	7,083	7,025	16,667	16,801	+134	101%	2.4	2.4
教育－総合科学課程	856	824	1,991	1,888	-103	95%	2.3	2.3
理	5,105	5,169	14,700	15,947	+1,247	108%	2.9	3.1
工	22,761	22,721	60,977	61,251	+274	100%	2.7	2.7
農	5,600	5,542	16,642	16,098	-544	97%	3.0	2.9
医・歯・薬・保健	10,820	10,895	36,962	36,466	-496	99%	3.4	3.3
医	3,576	3,550	15,973	15,306	-667	96%	4.5	4.3
歯	452	460	1,879	2,001	+122	106%	4.2	4.4
薬	809	828	3,111	3,147	+36	101%	3.8	3.8
看護	4,038	4,065	10,322	10,214	-108	99%	2.6	2.5
医療技術・他	1,945	1,992	5,677	5,798	+121	102%	2.9	2.9
生活科学	790	789	2,345	2,403	+58	102%	3.0	3.0
芸術・スポーツ科学	1,560	1,528	7,047	6,936	-111	98%	4.5	4.5
総合・環境・情報・人間	2,424	2,467	7,082	7,351	+269	104%	2.9	3.0
国公立大学 計	80,519	80,416	232,341	235,713	+3,372	101%	2.9	2.9

※河合塾調べ

「法・政治」系の志願者数は前年比 108%と、こちらも増加率が高い。大学グループに分けてみると、難関 10 大学で前年比 108%、準難関大で同 120%となった一方、その他の大学では同 93%と減少した。

「経済・経営・商」学系では、志願者数は前年比 102%だった。共通テスト直後までは、社会科学系の各系統で最も高い人気の系統であったが、人気を警戒して他系統に流出した受験生がいたものと推測する。

[教育学系（教員養成課程、総合科学課程）]

教員養成課程の志願者は前年比 101%、総合科学課程で同 95%となった。教育学系は不人気と言われているが、昨年あたりから減少幅が小さくなり、今年は減少に歯止めがかかった。教育学系はほぼ全都道府県に大学が設置されており、他系統に比べ入試難易度が高くないことなどが願いやすくしている。なお今春、倍率が 2.0 倍未満の低倍率の募集区分は全系統で約 474 区分にのぼるが、そのうち 43%を教員養成系が占めており、競争緩和が進む系統といえる。

[自然科学系（理、工、農）]

「理」学系では前年比 108%と志願者が増加した。分野別では「数学・数理情報」「化学」分野などで志願者が増加した。筑波大（理工-物理）、埼玉大（理-基礎化学）、東京都立大（理-化学）、富山大（理）、京都府立大（生命理工情報-生命化学）などは志願者が倍増した。また、2 次の国語がなくなる名古屋大（理）では、志願者は前年比 123%、倍率は 2.4 倍から 3.1 倍に上昇した。

「工」学系では志願者数は前年比 100%だった。難関大では東北大で志願者が増加したものの、他大では減少した大学が目立った。難関 10 大グループの志願者前年比は 97%だった。一方、準難関大では前年比 113%、その他大では同 99%となり、準難関大が人気となった。

「農」学系では前年比 97%、2 年連続の志願者減となった。志願者が減少した分野が多いなか、「獣医」は前年比 106%と志願者が増加した。

大学グループ別に分けると、難関 10 大の志願者は前年比 93%、準難関で同 101%、その他大で同 98%と、難関大で志願者減少が目立った。ただし、難関 10 大のうち、北海道大（水産）、東北大（農）、名古屋大（農）などは志願者増、一方、東京大（理二）で 1 割以上減少したほか、神戸大（農）も 2 割減と、動向は分かれた。

[医療系（医・歯・薬・保健）]

医療系全体の志願者数は、前年比 99%となった。「歯」では前年比 106%と志願者は 2 年連続増加、「薬」「看護」では前年並みとなった。

「医」では 5 年ぶりの減少となった。また、旧帝大を中心とする難関 9 大学の志願者は前年比 98%と減少率は低く、準難関、その他大で減少が目立つ。弘前大では 2 次試験を総合問題から英語・数学に変更した。対策が立てやすくなったため、志願者数は前年比 110%と増加した。大阪公立大では第 1 段階選抜に基準点のほか予告倍率（3 倍）を加えた。人数制限ができたことを警戒し、志願者数は前年比 71%と大きく減少した。

「薬」では前期日程は前年並みの志願者数であったが、難関大、準難関大を除いたその他大では前年比 111%と志願者は増加した。また、中期・後期日程ではそれぞれ前年比 92%、同 91%と減少が目立った。

[その他]

「総合・環境・情報・人間」の志願者は前年比 104%と増加した。「情報」分野では前年比 123%と志願者が集まった。志願者が大きく増加した大学をみていくと、群馬大（情報）前年比 127%、横浜市立大（データサイエンス）同 173%、名古屋市立大（データサイエンス）同 227%、滋賀大（データサイエンス）同 160%、周南公立大（情報科学）同 174%などがある。

■ 難関国立大の状況－東京大で志願者大幅減

〈図表 5〉は旧帝大を中心とした難関 10 大学の志願状況を前期日程・後期日程でまとめたものである。難関 10 大学全体では、前期日程の志願者数は 56,171 人（前年比 99%）となった。大学別にみると、北海道大、東北大、名古屋大、京都大、神戸大の 5 大学で志願者数が昨年を上回った。以下、難関 10 大学の状況を個別にみていく。

[北海道大学]

前期日程の志願者数は前年比 101%となった。学部別にみると志願者は総合入試文系、文、水産、歯学部で増加が目立った。総合入試文系、文、歯学部は昨年志願者が減少しており、その反動もあるだろう。教育学部では昨年まで 3 年連続で志願者が減少したが、今年は前年並みの志願者数となり、減少に歯止めがかかった。

一方、志願者が減少したのは法、医学部である。医学部では医学科は前年並みの志願者数となったものの看護学専攻、放射線技術科学専攻で志願者が大幅に減少した。

後期日程の志願者数は前年比 97%となった。法、経済、工学部で志願者の減少が目立った。なかでも工学部は前年比 82%と大幅に志願者が減少した。志願者が増加したのは、文、農、薬学部などである。このうち文学部は 4 年連続の志願者増となった。

[東北大学]

前期日程の志願者数は前年比 104%、2 年連続の志願者増となった。大きく志願者を増やしたのは文、法、理、工、農学部である。法学部は 5 年ぶりの志願者増、理、工学部は 2 年連続の志願者増となった。また農学部は 2020 年度以降隔年現象を起こしており、今年は志願者増の年に当たった。

志願者が減少したのは、教育、経済、医、薬学部である。教育学部は 2 年連続の志願者減となった。また、薬学部は前年比 88%と減少率が高いが、前年志願者が 1 割以上増加しており、一昨年並みの志願者数に戻った形だ。医学部では医学科で前年比 80%、看護学専攻で同 66%、放射線技術科学専攻で同 79%となった。いずれも前年志願者が増加しており、今年は警戒された形だ。

後期日程は経済、理の 2 学部が実施するが、大学全体で志願者は前年比 108%、2 年連続の志願者増となった。なかでも理学部の志願者は前年から 1 割以上増加した。

[東京大学]

大学全体の志願者数は前年比 89%となった。志願者数は 9 千人を下回り、2000 年度以降で見ても最小となった。東京大では理科三類以外の 5 科類で第 1 段階選抜の予告倍率が引き下げられ、第 1 段階選抜の通過者数が絞り込まれることになった。これを警戒し、出願を断念した受験生が多かったものとみる。第 1 段階選抜は、今年は全科類で実施、7,503 名が合格した。

科類別では、文科一類では前年並みの志願者数だったものの、文科二類で前年比 94%、文科三類で同 86%、理科一類で同 88%、理科二類で同 85%となった。なお、第一段階選抜の予告倍率に変更がなかった理科三類でも前年比 93%と志願者は減少した。昨年まで 3 年連続で志願者数が 4 百人を超えており、こちらも警戒された形だ。

[東京科学大学]

昨年 10 月に東京医科歯科大と東京工業大が統合して誕生した東京科学大。大学全体の志願者数は前期日程で前年比 93%と減少した（前年は東京医科歯科大、東京工業大の合計値）。理工系で前年比 92%、医療系で同 104%と、減少は理工系学院が要因となった。

志願者減少が目立ったのは、工、物質理工、生命理工、環境・社会理工の 4 学院で、生命理工と環境・社会理工学院は 2 年連続の志願者減となった。なお、工学院では志願者は減少したものの、総合型選抜の拡大により一般選抜の募集人員が約 50 名減少している。倍率で見ると、前年の 4.6 倍から 4.8 倍へと上昇している。また、情報理工学院では今年の志願者数は前年比 98%と前年並みだが、前年志願者数は 2 百人以上減少しており、一昨年と比較して減少したままとなっている。

医学部では、医学科は前年並みの志願者数、看護学専攻で増加、検査技術学専攻で減少した。いずれも前年と反対の動向で、反動が出たものとみる。歯学部では歯学科で前年比 133%、2 年連続の志願者増となった。

後期日程は医、歯学部のみが実施する。志願者数は医学部で前年比 104%、歯学部で同 69%となった。医学科では 2 年連続の志願者減、歯学科は前年の高倍率が敬遠された。

[一橋大学]

前期日程の志願者数は前年比 98%となった。志願者が増加したのは、法、ソーシャル・データサイエンス学部である。法学部では 2 年連続の志願者増となった。志願者が減少したのは、社会、経済、商学部である。経済学部では前年まで 2 年連続で志願者増となっていたこと、商学部では前年志願者が大幅に増加したことから警戒されたようだ。また、社会学部は 2 年連続の志願者減となった

後期日程は経済、ソーシャル・データサイエンスの 2 学部で実施する。両学部とも志願者数は前年から 1 割以上増加した。経済学部では今春は前年比 112%と増加した。経済学部は 2 年連続の志願者増で、3 年ぶりに志願者数が 1 千 2 百人を超えた。ソーシャル・データサイエンス学部も志願者数は 6 百人を超え、倍率は 24.5 倍となった。

<図表 5> 国立難関 10 大学の志願状況

大学名	前期日程				後期日程			
	24年度	25年度	前年差	前年比	24年度	25年度	前年差	前年比
北海道	5,196	5,248	+52	101%	4,286	4,158	-128	97%
東北	4,423	4,617	+194	104%	1,279	1,378	+99	108%
東京	9,432	8,421	-1,011	89%	-	-	-	-
東京科学	4,628	4,320	-308	93%	369	333	-36	90%
一橋	2,721	2,671	-50	98%	1,683	1,897	+214	113%
名古屋	4,359	4,484	+125	103%	90	83	-7	92%
京都	7,800	8,077	+277	104%	406	-	-406	-
大阪	7,196	7,099	-97	99%	-	-	-	-
神戸	6,110	6,178	+68	101%	4,046	4,216	+170	104%
九州	5,107	5,056	-51	99%	2,433	2,230	-203	92%
難関10大計	56,972	56,171	-801	99%	14,592	14,295	-297	98%

※河合塾調べ、※東京科学大の昨年の数値は、東京医科歯科大、東京工業大の合計値

[名古屋大学]

前期日程の志願者数は前年比 103%、2年連続の増加となった。学部別にみると、文、法、理、農学部で志願者が増加した。文学部は4年ぶりの、法学部は3年ぶりの志願者増となった。理学部では前年比 123%と志願者が大きく増加した。2次試験で課されていた国語がなくなるため、模試時から人気となっていた。なお、総合型選抜の導入により一般選抜の募集人員が減員となるため、倍率は前年の 2.4 倍から 3.1 倍に大きく上昇した。

志願者が減少したのは、教育、経済、医、情報学部である。教育学部では3年連続の志願者減となった。医学部の志願者数は、医学科では前年並みだったが、看護学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻でそれぞれ1割以上減少した。情報学部では自然情報学科で志願者減少が目立った。前年志願者が大きく増加していたため、今年は警戒されたようである。

後期日程は医学科のみ実施する。志願者は昨年90人から83人に減少した。旧帝大の医学科で唯一、後期日程を実施することから、高成績層が集まっていることが予想される。

[京都大学]

前期日程の志願者数は 104%と増加した。4年連続の志願者増となった。教育、経済、総合人間学部を除くすべての学部で志願者が増加した。教育、経済、総合人間学部では、いずれも文系型と理系型の2つの選抜方法があるが、教育学部の理系型を除き、いずれも減少した。法学部の志願者は前年比 117%と大きく増加した。前年も1割以上増加しており、この2年で志願者は200人以上増加したことになる。理学部も3年連続の志願者増となった。倍率も2022年度の2.2倍から今春は3.0倍に上昇している。

医学部では人間健康科学で前年から2割以上志願者が増加、倍率も前年の3.2倍から4.2倍に上昇した。医学科の志願者数は前年比 105%と増加率は高くないものの、近年志願者は増加傾向で、志願者数が300人を超えたのは2018年度以来7年ぶりである。

[大阪大学]

大学全体の志願者数は前年比 99%だった。京都大の志願者が増加した影響からか、経済学部を除き志願者は前年並み、もしくは減少と全体に低調だ。

文系学部では外国語、法学部で志願者が減少したほか、文学部の志願者数も前年並みに留まった。外国語学部では、前年最も倍率が高かったモンゴル語専攻の志願者が前年比 28%と大きく減少、倍率も 4.9 倍から 1.4 倍にダウンした。志願者が増加したのは経済学部で、3年ぶりの志願者増となった。

理系学部では、工学部で志願者が減少、基礎工学部では前年並みとなった。両学部では入学定員増により、前期日程の募集人員が電子情報工学科で 28 名増、情報科学科で 18 名増となる。志願者は電子情報工学科で前年比 85%、情報科学科で同 106%となった。志願者が増加した情報科学科でも倍率は前年の 3.2 倍から 2.7 倍にダウンした。

医療系学部の志願者は、医学部医学科、歯、薬学部で増加した。医学科、歯学部は2年連続の志願者増となった。医学部保健学科の各専攻は、いずれも志願者が減少、看護学専攻と検査技術科学専攻の倍率は2倍を切った。

[神戸大学]

前期日程の志願者数は前年比 101%だった。学部別にみると、法、理、医、国際人間科学部で志願者が増加した。法、理学部では2年連続の志願者増となった。国際人間科学部は4年ぶりの志願者増で、志願者数が700人を超えたのも4年ぶりである。医学部では医療機器開発を学ぶ医療創成工学科が誕生する。初年度は113人の志願者が集まり、倍率は4.5倍となった。このほか、医学科では3年連続、看護学専攻、検査技術科学専攻では2年連続の志願者増となった。また、11番目の学部として誕生するシステム情報学部には402人の志願者が集まり、倍率は3.7倍となった。

志願者が減少したのは、文、経済、経営、農学部などである。文学部は近年隔年現象が顕著で、過去6年の志願者前年比は121%→70%→158%→67%→133%→92%で推移している。経営学部は3年ぶりの志願者減となった。

後期日程の志願者数は前年比 104%となった。学部別にみると、文、法、海洋政策科学部などで志願者増となった。いずれも前年志願者が減少していた学部である。新設のシステム情報学部には347人の志願者が集まり、17.4倍となった。

[九州大学]

前期日程の志願者数は前年比 99%となった。大学全体では直近の4年で志願者数の変化は小さい。学部別にみると、志願者が増加したのは、法、経済、理学部である。一方、減少したのは、教育、共創、芸術工、医、歯、薬学部などである。薬学部の臨床薬学科では2次で面接を導入するほか、2段階選抜を導入した（予告倍率3倍）。志願者は前年比 69%と大きく減少、倍率も 3.3 倍から 2.3 倍にダウンした。

後期日程では、前年比 92%と志願者が減少した。文学部で志願者が半減、農学部で前年比 55%と、大きく減少した学部がみられた。一方で法、理学部では志願者が増加した。とくに法学部では前年比 132%と大きく増加した。京都大（法）が後期日程を廃止しており、神戸大（法）ともども、志願者増となった。

大学別の出願状況は河合塾入試情報サイト Kei-Net（※）にて閲覧が可能となっている。ぜひご利用いただきたい。
※Kei-Net 国公立大出願状況：<https://www.keinet.ne.jp/exam/entry/index.html>